

令和5年 秋の全国交通安全運動推進要綱

目 的

この運動は、広く府民に交通安全思想の普及・浸透を図り、交通ルールの遵守と正しい交通マナーの実践を習慣付けるとともに、府民自身による道路交通環境の改善に向けた取組を推進することにより、交通事故防止の徹底を図ることを目的とする。

期 間

令和5年9月21日（木）から30日（土）までの10日間
 （準備期間：9月1日（金）から9月20日（水）まで）
 交通事故死ゼロを目指す日 9月30日（土）

運動の重点

全 国 重 点

- こどもと高齢者を始めとする歩行者の安全の確保
- 夕暮れ時と夜間の交通事故防止及び飲酒運転等の根絶
- 自転車等のヘルメット着用と交通ルール遵守の徹底

大 阪 重 点

- 二輪車の交通事故防止

スローガン

- 運転は ゆとりとマナーの 二刀流

運動の進め方

交通事故により、いまだ多くの人々が犠牲になっていることから、交通事故情勢が府民に正しく理解・認識され、一人ひとりが交通ルールを守り、交通マナーを実践するなど交通事故の防止に寄与するよう、効果的に運動を展開する。

- 関係機関・団体等との連携を密にし、支援協力体制を保持する。
- SNS等の活用など、時代に即した取組等を通じて、広報啓発活動を実施する。
- 交通事故被害者等の視点に配慮した広報啓発活動を実施する。
- 本運動の趣旨及び重点等を理解し、率先して模範的な交通行動を示すよう特段の配慮をする。

9月の府内一斉交通安全指導日等

9月 8日（金）	ミニバイク・自動二輪車・自転車の安全指導日
9月15日（金）	近畿交通安全デー、交通安全家庭の日 高齢者交通事故ゼロの日 シートベルト着用徹底の日
9月20日（水）	めいわく駐車・放置自転車追放デー ノーマイカーデー
9月30日（土）	交通事故死ゼロを目指す日

こどもと高齢者を始めとする歩行者の安全の確保

本年6月末時点で、大阪府内においては歩行者の交通事故件数、死者数、負傷者数及び重傷者数がともに前年比で増加しており、歩行者側の主な原因として横断歩道外横断や信号無視等の法令違反が認められる。また、次代を担うこどものかけがえのない命を社会全体で交通事故から守ることが重要であるにもかかわらず、歩行中のこどもの死亡事故が発生している。加えて、歩行中の交通事故による死者のうち高齢者の占める割合が高いことから、これらこどもと高齢者を始めとする歩行者の安全の確保を図る必要がある。

◆ 推進機関・団体での推進項目

【歩行者の交通ルール遵守の徹底】

- 横断歩道の通行、信号遵守等の基本的な交通ルール遵守の周知徹底
- 横断時には、運転者に対して横断する意思を明確に伝え、安全を確認してから横断を始めることや横断中も周囲に注意することを促す呼び掛けの推進
- 歩行中幼児・児童の交通事故の特徴（飛び出しによる死者・重傷者が多いなど）等を踏まえた交通安全教育等の推進
- 安全に道路を通行することについて、日常生活や教育現場における保護者や教育関係者からの幼児・児童への教育の推進
- 高齢歩行者の死亡事故の特徴（65歳未満と比較して横断中が多いなど）を踏まえ、高齢者自身が加齢に伴って生ずる身体機能の変化（認知機能の低下、疾患による視野障害等の増加、反射神経の鈍化、筋力の衰えなど）を理解し、安全な交通行動を実践するための交通安全教育等の推進
- 反射材用品等の視覚効果や使用方法等の周知と自発的な着用の促進

【歩行者の安全の確保】

- 通学路、未就学児を中心にこどもが日常的に集団で移動する経路等における見守り活動等の推進
- 「ゾーン30プラス」の整備を始めとする生活道路対策の推進
- 通学路交通安全プログラム等に基づく点検や対策の推進

◆ 広報・実践促進事項

- ・ 歩行者も交通ルールを守り自分の身を守りましょう。
- ・ 横断歩道を横断するときは、ドライバーに目と手で合図（ハンドサイン）をしましょう。
- ・ まわりの大人がこどもたちの手本となりましょう。

● 歩行者は

- 交差点では、青信号でも必ず左右の安全確認をしましょう。
- 道路を横断するときは、横断歩道を渡りましょう。
- 道路で遊んだり、飛び出しや無理な横断、信号無視はやめましょう。
- 外出する時は明るい目立つ色の服装に心がけ、夕暮れ時や夜間は反射材を活用しましょう。
- スマートフォン等の操作など注意力が散漫になる「ながら行為」はやめましょう。

● ドライバーは

- こどもや高齢者の行動特性を理解し、特に通学路や生活道路では、思いやりのある運転をしましょう。

● 地域・学校・職場では

- 地域交通安全活動推進委員、教育関係者及び高年（齢）者交通安全リーダー等は、こどもや高齢者を対象とした街頭指導をしましょう。
- 高齢者自身の交通安全意識と高齢者に対する保護意識の高揚を図りましょう。
- 車両等の使用者は、安全運転管理者、運行管理者等と連携して、業務形態に対応した交通安全教育等を行うなどして、安全運転や交通事故情勢等に関するきめ細かな指導・情報提供を行いましょ。

● 家庭では

- こどもには横断歩道の渡り方など大人が手本を示すなど、具体的に指導しましょう。
- 身近に感じた「ヒヤリ・ハット」体験等をもとに、交通安全について家族で話し合いましょ。

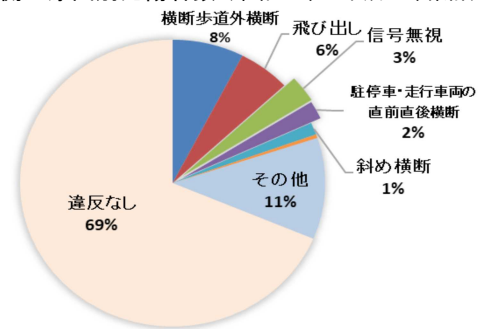
大阪府の状況 令和5年6月末確定値（府警調べ）

○ 歩行者の交通事故発生状況（令和5年6月末）

	令和5年	令和4年	前年比	増減率
件数	1,316	1,269	+47	+3.7
死者数	22	17	+5	+29.4
負傷者数	1,341	1,293	+48	+3.7
重傷者数	271	268	+3	+1.1

※ 歩行者が関連（1当又は2当）した事故件数を計上。死傷者数は歩行者自身の死傷者数を計上

○ 歩行者側の原因別死傷者数（令和4年～平成30年累計）

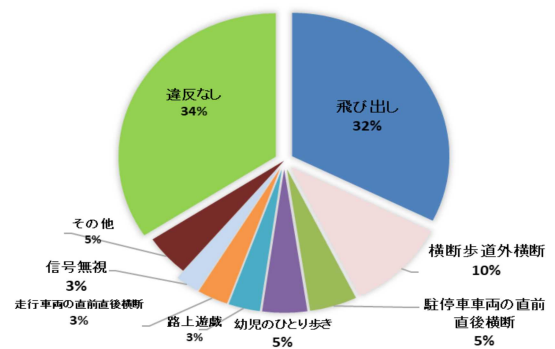


○ こどもの状態別死者・負傷者数（令和5年6月末）

状態	年	令和5年				令和4年				前年対比	
		死者数	構成率	負傷者数	構成率	死者数	構成率	負傷者数	構成率	死者数	負傷者数
歩行者		1	100.0	146	18.4	0	0.0	134	18.1	+1	+12
自転車		0	0.0	375	47.3	1	33.3	351	47.4	-1	-1
自動車		0	0.0	266	33.5	2	66.7	251	33.9	-2	-2
二輪車		0	0.0	6	0.8	0	0.0	3	0.4	±0	±0
その他		0	0.0	0	0.0	0	0.0	1	0.1	±0	±0
合計		1	100.0	793	100.0	3	100.0	740	100.0	-2	+53

※ 件数は子供が関連した（1当又は2当）事故件数、死傷者数は子供自身の人数を計上

○ こども歩行者側の原因別死傷者数（令和4年～平成30年累計）

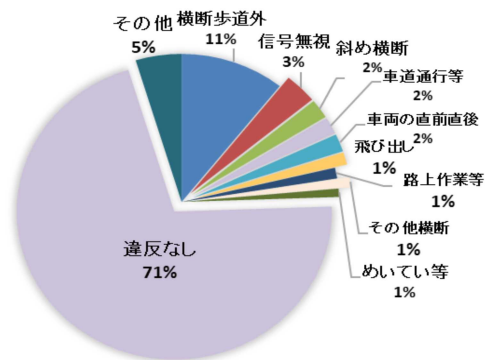


○ 高齢者の状態別死者・負傷者数（令和5年6月末）

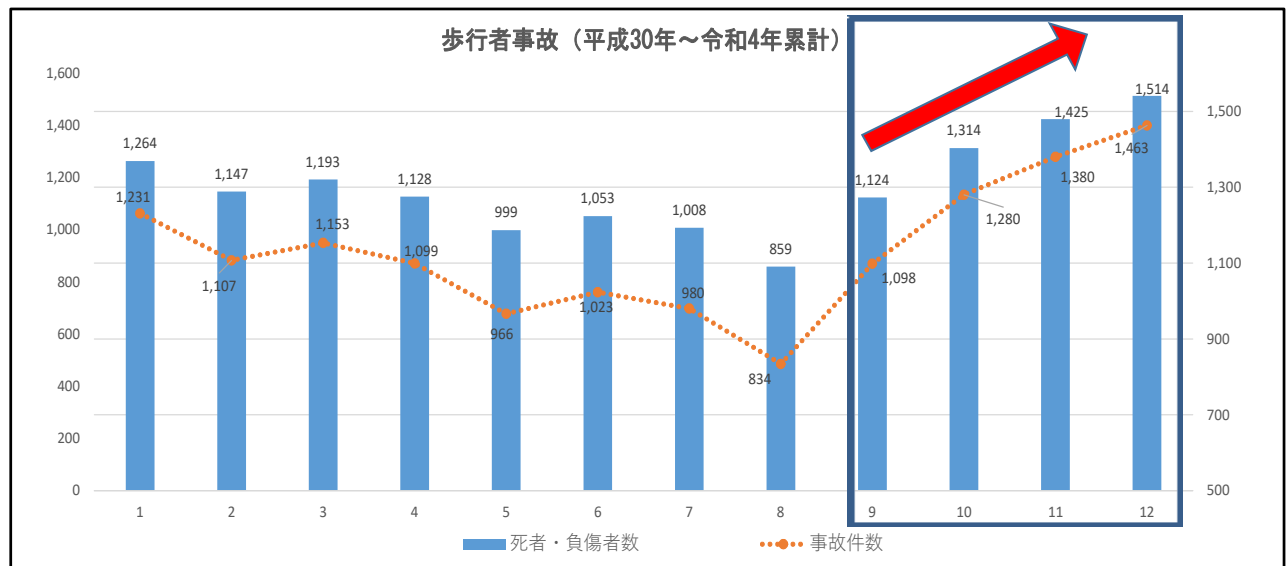
状態	年	令和5年				令和4年				前年対比	
		死者数	構成率	負傷者数	構成率	死者数	構成率	負傷者数	構成率	死者数	負傷者数
歩行者		17	40.5	398	19.4	10	37.0	414	20.6	+7	-16
自転車		12	28.6	747	36.4	8	29.6	808	40.3	+4	-61
自動車		5	11.9	640	31.2	6	22.2	539	26.9	-1	+101
二輪車		6	14.3	265	12.9	3	11.1	245	12.2	+3	+20
その他		2	4.8	0	0.0	0	0.0	1	0.0	+2	-1
合計		42	100.0	2,050	100.0	27	100.0	2,007	100.0	+15	+43

※ 高齢者による件数とその事故により生じた死傷者数を計上

○ 高齢歩行者側の原因別死傷者数（令和4年～平成30年累計）



○ 月別の歩行者の事故件数及び死者・負傷者数（平成30年～令和4年累計）
過去5年の累計で9月から年末にかけて増加傾向



夕暮れ時と夜間の交通事故防止及び飲酒運転等の根絶

例年、夕暮れ時や夜間には、重大交通事故につながるおそれのある交通事故が多発している。「自動車対歩行者」の死亡事故の多くが歩行者の道路横断中に発生しており、危険な横断など歩行者側が原因の場合もあるが、歩行者保護意識の向上が必要である。

また、飲酒運転等による悲惨な交通事故が依然として発生しているほか、妨害運転（いわゆる「あおり運転」。以下同じ。）等の悪質・危険な運転による交通事故も後を絶たない。このため、夕暮れ時と夜間の交通事故防止及び飲酒運転等の根絶を推進する必要がある。

なお、免許人口10万人あたりの75歳以上の運転者の交通死亡事故件数が、75歳未満の運転者と比較して多く、その要因としてハンドルの操作不適やブレーキとアクセルの踏み間違えなどが多くなっていること、自動車乗車中における後部座席シートベルトの着用率やチャイルドシートの適正使用率がいまだ低調であることから、安全運転意識の向上に向けた取組を推進する。

◆ 推進機関・団体での推進項目

【夕暮れ時と夜間の交通事故防止】

- 夕暮れ時と夜間における死亡事故の特徴（日没後1時間の横断中歩行者の死亡事故が多いなど）を踏まえた交通安全教育等の実施
- 夕暮れ時における前照灯の早めの点灯の励行
- 夜間の対向車や先行車がない状況におけるハイビームの活用促進
- 自動車運送業を始めとする事業者による従業員に対する夕暮れ時と夜間の運転時の注意喚起

【運転者の歩行者等への保護意識の向上】

- 交通ルールの遵守と歩行者や他の車両に対する「思いやり・ゆずり合い」の気持ちを持って通行する交通マナーの呼び掛け
- 横断歩道等に歩行者等がないことが明らかな場合を除き、直前で停止可能な速度で進行する義務や横断歩道等における歩行者等優先義務等の遵守による歩行者等の保護の徹底
- 運転者に対し、歩行者等の保護の徹底を始め、安全に運転しようとする意識及び態度を向上させるための交通安全教育や広報啓発の推進
- 運転中のスマートフォン等の使用や注視の危険性についての広報啓発の推進

【飲酒運転の根絶】

- 地域、職域等における飲酒運転根絶への取組の推進及び交通事故被害者等の声を反映した広報啓発活動等を通じた「飲酒運転を絶対にしない、させない」という「飲酒運転を許さない社会環境」の醸成
- 飲食店等における運転者への酒類提供禁止の徹底やハンドルキーパー運動の促進
- 運転者の点呼時におけるアルコール検知器の使用促進や業務に使用する自動車の使用者等における義務の遵守の徹底

【妨害運転等の防止】

- 妨害運転等の悪質・危険な運転についての広報啓発の推進
- 「思いやり・ゆずり合い」の気持ちを持った運転の必要性、ドライブレコーダーの普及促進等に関する広報啓発の推進

【高齢運転者の交通事故防止】

- 高齢運転者に対する加齢に伴う身体機能の変化が運転に及ぼす影響等を踏まえた交通安全教育及び広報啓発の推進
- 衝突被害軽減ブレーキ等の先進安全技術を搭載した安全運転サポート車（略称：サポカー）の普及啓発とサポートカー限定免許制度についての広報啓発の推進
- 身体機能の変化等により安全運転に不安のある運転者等に対する安全運転相談窓口の積極的な周知及び利用促進並びに運転免許証の自主返納制度及び自主返納者に対する各種支援施策の広報啓発による自主返納の促進

【後部座席を含めた全ての座席のシートベルト着用とチャイルドシートの正しい使用の徹底】

- 全ての座席におけるシートベルト着用とチャイルドシートの使用義務の周知・指導の徹底及びその必要性・効果に関する理解の促進
- シートベルトの高さや緩みの調整、チャイルドシートの確実な取付方法やハーネス（肩ベルト）の締付け方等、正しい使用方法についての広報啓発の推進
- 高速乗合バスや貸切バス等の事業者に対する全ての座席におけるシートベルト着用を徹底させるための指導・広報啓発の推進

◆ 広報・実践促進事項

- ・ 夕暮れ時は早めにライトを点灯し、夜間はハイビームを適切に活用しましょう。
- ・ 夕暮れ時や夜間には、反射材やリフレクターウエアを着用しましょう。
- ・ 時間に余裕を持って運転し、思いやりやゆずり合いの気持ちを持ちましょう。
- ・ 「飲酒運転・妨害運転はどちらも犯罪！」絶対にやめましょう！
- ・ 車で出かける時は、お酒を飲まずに仲間を送り届ける人「ハンドルキーパー」を決めましょう。
- ・ 運転に自信のない高齢者は相談窓口を積極的に活用し、運転免許の自主返納について考えましょう。
- ・ 全ての座席でシートベルトを着用し、チャイルドシートを正しく使用しましょう。

● ドライバーは

- 夕暮れ時は早めにライトを点灯し、夜間はハイビームを適切に活用しましょう。
- 「思いやり・ゆずり合い」の気持ちを持った運転をしましょう。
- 横断歩道等では歩行者等がないことが明らかな場合を除き、直前で停止可能な速度で進行しましょう。
- 横断歩道等においては歩行者等優先義務等を遵守しましょう。
- 運転中のスマートフォン等の使用や注視はやめましょう。
- 「飲んだら乗るな、乗るなら飲むな」を遵守しましょう。
- 高齢運転者は、参加・体験・実践型の交通安全教育や運転適性診断を積極的に受け、自らの運転適応能力や身体機能の変化の的確な認識に基づき、ゆとりのある運転行動を心掛けましょう。
- 全ての座席でシートベルトを着用しましょう。
- チャイルドシートはハーネス（肩ベルト）をしっかりと締めるなど正しく使用しましょう。

● 地域・職場では

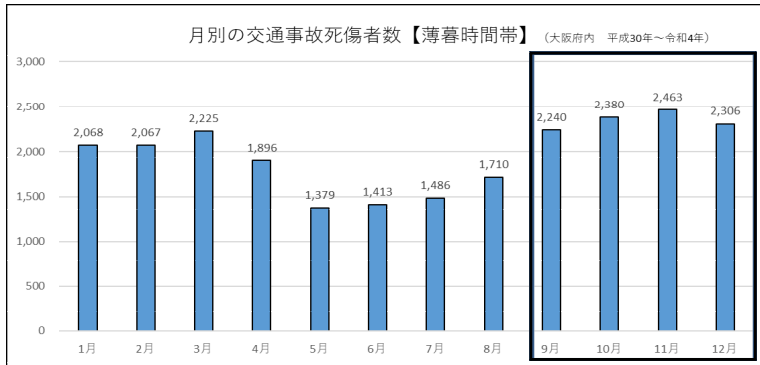
- 夕暮れ時や夜間には、反射材やリフレクターウエアを着用しましょう。
- 自治会、子供会、老人クラブ等において、夕暮れ時や夜間に歩行者が交通事故に遭わないための参加・体験・実践型の交通安全教室を開催しましょう。
- 広報誌・機関誌等に身近な交通事故事例や飲酒運転による事故の悲惨さ、妨害運転の危険性を訴える記事の掲載に努めましょう。
- 事業者等は、点呼時にアルコール検知器の使用を促進し、飲酒運転の根絶に努めましょう。
- 安全運転管理者等は、運転者に対し、飲酒運転や妨害運転の危険性等について教育し、安全運転を遵守させましょう。
- 地域や職場で開催する交通安全教室や各種行事において、全ての座席でのシートベルト着用、チャイルドシートの正しい使用方法及びその着用効果について、周知・指導を行いましょ。

● 家庭では

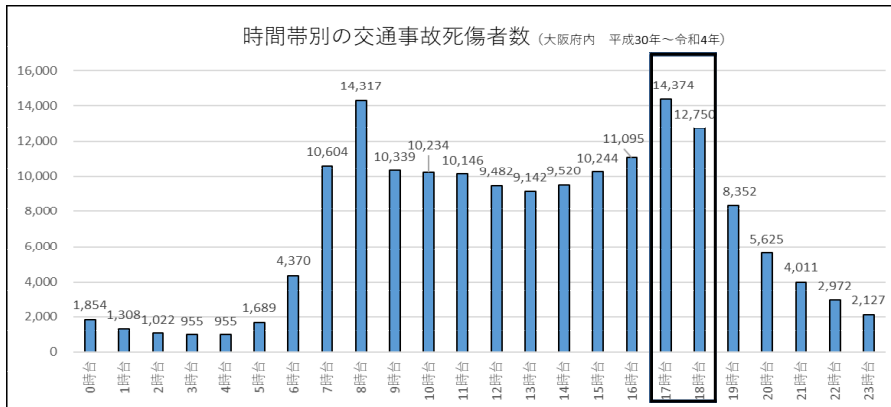
- 夕暮れ時の早めのライト点灯、夜間のハイビームの適切な活用、明るい色の服の着用や反射材等の有効活用について家族で話し合い、交通安全意識を高めましょう。
- 「飲酒運転は絶対にしない・させない・許さない」を合言葉のもと、家族だけでなく友人同士などでお互いに注意し合いましょ。
- あおり運転に遭った場合等に備え、ドライブレコーダーを装着しましょ。
- 運転に自信がなくなったり、運転する機会が少なくなった高齢運転者がいる場合は、運転免許の自主返納について家族で話し合いましょ。
- シートベルト及びチャイルドシート着用の必要性とその効果について家族で話し合い、正しい着用を習慣づけましょ。

大阪府の状況

○ 薄暮時間帯における月別の交通事故死傷者数（平成30年～令和4年累計）



○ 時間帯別の交通事故死傷者数（平成30年～令和4年累計）



○ 飲酒運転による交通事故発生状況の経年推移

区分	年	H25	H26	H27	H28	H29	H30	R1	R2	R3	R4
		件数	239	236	192	191	207	181	174	151	131
死亡事故件数		11	6	10	11	12	6	13	9	8	8
死者数		11	6	10	11	12	6	14	9	8	9
負傷者数		316	347	264	251	269	230	233	214	169	209
重傷者数		33	35	28	20	31	16	33	23	21	27

(6月末)		前年対比
令和5年	令和4年	
81	71	+10
4	4	±0
4	4	±0
100	91	+9
16	16	±0

※ 1当原付以上飲酒ありの件数とその事故により生じた死傷者数を計上

○ 免許人口10万人あたりの交通事故発生状況（令和4年）

75歳未満：491.9件（死者数2.7人）
75歳以上：601.7件（死者数3.5人）

※ 1当原付以上運転者による事故件数

○ シートベルト着用率 ※警察庁/JAFシートベルト着用状況全国調査（令和4年）

	運転者		助手席		後部座席	
	大阪	全国	大阪	全国	大阪	全国
一般道	98.3%	99.1%	95.0%	96.9%	33.0%	42.9%
高速道路	99.0%	99.6%	96.8%	98.7%	52.3%	78.0%

○ チャイルドシート着用率 ※警察庁/JAFチャイルドシート使用状況調査（令和4年）

大阪府：57.4% 全国：74.5%
（全国47都道府県で調査）

適正着用率：65.2%（全国）

自転車等のヘルメット着用と交通ルール遵守の徹底

本年6月末時点で、大阪府内における自転車の交通事故件数、死者数、負傷者数及び重傷者数はともに前年比で増加しているほか、過去5年累計で見ると大阪府内における交通事故の全死者数及び重傷者数のうち、自転車乗用中の交通事故死者数及び重傷者数は全国と比較して高い構成率となっている。また、自転車乗用中におけるヘルメット非着用時の致死率は、着用時と比較して高く、自転車乗車中死者の人身損傷部位は、頭部が6割以上となっている。さらに、自転車側にも安全不確認や一時不停止等の法令違反が認められる。加えて、道路交通法の一部を改正する法律の施行により、本年7月1日から特定小型原動機付自転車（いわゆる「電動キックボード等」）に関する新たな交通ルールが定められ、ヘルメット着用についても努力義務となっていることから、自転車等のヘルメット着用と交通ルール遵守の徹底が必要である。

◆ 推進機関・団体での推進項目

【自転車利用者のヘルメット着用と安全確保】

- 全ての自転車利用者に対するヘルメット着用の必要性・効果に関する理解の促進と努力義務化を踏まえた着用の徹底に向けた広報啓発の推進
- 夕暮れ時の早めの灯火点灯と反射材用品等の取付け促進による自転車の被視認性の向上
- 幼児を幼児用座席に乗車させる際のシートベルト着用及び幼児二人同乗用自転車の乗車・降車時における転倒等の具体的な危険性の周知や安全利用に関する広報啓発の推進
- 自転車利用者の安全を確保するための定期的な点検整備の促進
- 自転車事故被害者の救済に資するための損害賠償責任保険等への加入促進

【自転車の交通ルール遵守の徹底】

- 「自転車安全利用五則」に定められた通行方法や自転車通行空間が整備された箇所における通行方法の周知と遵守の徹底
- 信号の遵守や交差点での一時停止・安全確認のほか、夜間の無灯火走行、飲酒運転、二人乗り、並進の禁止等交通事故防止のための基本的な交通ルールの周知と遵守の徹底
- スマートフォン等使用時や傘差し等の片手運転、イヤホン等を使用した運転の危険性の周知と指導の徹底
- 自転車を用いた配達業務中の交通事故を防止するため、関係事業者等に対する交通安全対策の働き掛けや自転車配達員に対する街頭における指導啓発、飲食店等を通じた配達員への交通ルール遵守の呼び掛け等の推進

【特定小型原動機付自転車のヘルメット着用と交通ルール遵守の徹底】

- 特定小型原動機付自転車に関する新たな交通ルールの周知と遵守の徹底及び被害軽減のためのヘルメット着用の徹底
- 特定小型原動機付自転車の利用者に対する販売事業者、シェアリング事業者等と連携した安全利用についての広報啓発の推進

◆ 広報・実践促進事項

- ・ 自転車も電動キックボード等の特定小型原動機付自転車も「くるま」の仲間です。交通ルールを守りましょう。
- ・ スピードの出しすぎ、「ながらスマホ」はやめましょう。
- ・ 自転車等に乗る際はヘルメットを着用し、万一の事故に備えましょう。

● 自転車等に乗るときは

- ヘルメットを着用し、万一の事故に備えましょう。
- 信号や一時停止等の交通ルールを守り、安全な通行を心掛けましょう。
- 歩行者の横を通行する際は、減速し十分な距離を取りましょう。
- 運転中のイヤホン・スマートフォン等の使用、二人乗り、傘差し等の危険な運転はやめましょう。
- 夕暮れ時は早めにライトをつけましょう。
- スピードの出しすぎ、「ながらスマホ」はやめましょう。
- 幼児を自転車の幼児用座席に乗せるときはシートベルトを着用しましょう。
- 幼児2人を自転車に乗せる際には、後部座席、前部座席の順に乗せ、降ろす際には、前部座席、後部座席の順に降ろしましょう。
- 損害賠償責任保険等に加入しましょう。

● 地域・職場では

- 地域交通安全活動推進委員、高年（齢）者交通安全リーダー等は、自転車利用者を対象とした街頭指導をしましょう。
- フードデリバリー関係事業者は、自転車配達員を対象とした交通ルール遵守についての指導を実施しましょう。
- 事業者や安全運転管理者等は、利用する自転車の定期的な点検整備を励行するほか、従業員に対し、交通ルールの遵守について指導を徹底しましょう。
- 自転車等乗用中の事故による被害者救済に備え、損害賠償責任保険等に加入しましょう。

● 家庭では

- 自転車等の正しい乗り方について家族みんなで話し合い、交通ルールを守りましょう。
- 自転車に反射材用品を取り付け、夜間の事故防止に努めましょう。
- 万一の交通事故に備え、ヘルメットを着用しましょう。
- 自転車等乗用中の事故による被害者救済に備え、損害賠償責任保険等に加入しましょう。

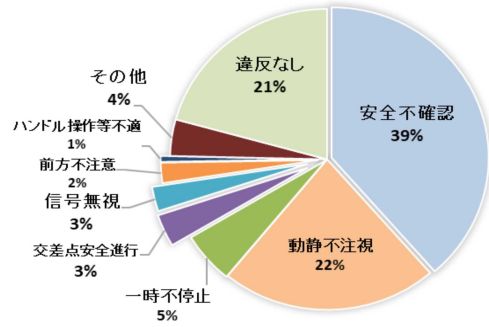
大阪府の状況

○ 自転車の交通事故発生状況（令和5年6月末）

区分	年		前年対比	増減率
	令和5年	令和4年		
件数	4,316	4,256	+60	+1.4
死者数	23	18	+5	+27.8
負傷者数	4,191	4,122	+69	+1.7
重傷者数	535	491	+44	+9.0

※ 件数は関連件数（1当又は2当）
死者数、負傷者数は自転車自身の死傷者数を計上

○ 自転車の原因別死者・重傷者数（令和4年～平成30年累計）



○ 自転車の場所別死者・重傷者数（令和5年6月末）

	令和5年				令和4年				前年対比	
	死者数	重傷者数		死者数	重傷者数		死者数	重傷者数	死者数	重傷者数
		構成率	構成率		構成率	構成率				
交差点	8	34.8	385	72.0	9	50.0	350	71.3	-1	+35
交差点付近	8	34.8	27	5.0	9	50.0	37	7.5	-1	-10
交差点等	16	69.6	412	77.0	18	100.0	387	78.8	-2	+25
単路	6	26.1	119	22.2	0	0.0	100	20.4	+6	+19
その他	1	4.3	4	0.7	0	0.0	4	0.8	+1	±0
合計	23	100.0	535	100.0	18	100.0	491	100.0	+5	+44

※ 死者数、重傷者数は自転車自身の死者・重傷者数を計上

○ 自転車乗用中における交通事故死傷者のヘルメット着用状況（令和5年6月末）

	死者数			重傷者数		
	構成率	前年対比	構成率	前年対比		
着用	2	8.7%	+2	25	4.7%	+5
非着用	21	91.3%	+3	490	91.6%	+42
不明	0	0.0%	±0	20	3.7%	-3
合計	23	100.0%	+5	535	100.0%	+44

【自転車乗用中における交通事故死者のヘルメット着用状況（平成30年～令和4年）】

自転車の交通事故（平成30年～令和4年）

全死者数
682人

自転車
147人

自転車の死者数の
約**64%** (94人)が
頭部負傷

頭部負傷のほぼ全員が
ヘルメット非着用!

自転車安全利用五則

- 1 車道が原則、左側を通行
歩道は例外、歩行者を優先
- 2 交差点では信号と一時停止を守って、安全確認
- 3 夜間はライトを点灯
- 4 飲酒運転は禁止
- 5 ヘルメットを着用

二輪車の交通事故防止

令和5年6月末時点で、大阪府における二輪車の交通事故件数、死者数、負傷者数は前年比で減少しているものの、重傷者数は増加しており、状態別死者・重傷者数の割合は依然として二輪車が高い水準で推移していることから、無謀なすり抜け運転の防止を目的とする「二輪車“すり抜け運転”ストップ運動」等を始めとする広報啓発等を推進し、二輪車の交通事故防止を図る。

◆ 推進機関・団体での推進項目

- 二輪車運転者に対する交通ルールの遵守、交通マナー向上に向けた積極的な広報啓発活動の推進
- 街頭活動を通じ、車列のすり抜け等を行う二輪車運転者に対する指導警告の推進（二輪車“すり抜け運転”ストップ運動の推進）

◆ 広報・実践促進事項

- ・ 交差点に進入するときは、しっかり安全確認をしましょう。
- ・ 無理な追い越しやすり抜け運転は非常に危険です。絶対にやめましょう。
- ・ スピードを控え、危険を予測した運転をしましょう。
- ・ 交通事故に備え、ヘルメット及び胸部プロテクター等を正しく着用し、体をしっかり保護しましょう。

● 二輪車運転者は

- 気持ちと時間に余裕を持ち、危険を予測した運転をしましょう。
- 車間距離を十分に取り、車列の横をすり抜けたり、無理な追い越しや急な進路変更はやめましょう。
- 安全な速度で走行し、見通しの悪い交差点等では一時停止するなどして、必ず左右の安全確認をしましょう。
- 交差点を直進する際は、特に対向の右折車両の動きに十分注意しましょう。
- 車との並進を避け、左折時の巻き込みに注意しましょう。
- 交通事故に備えて、ヘルメット及び胸部プロテクター等を正しく着用しましょう。

● 地域・職場では

- 地域交通安全活動推進委員等による二輪車運転者を対象とした街頭活動をしましょう。
- 事業者や安全運転管理者は、二輪車を利用する従業員に対し、安全に運転するための基本事項を再確認させ、技能と知識の定着を図りましょう。
- ヒヤリ・ハット映像等を活用した交通安全教育を行いましょう。

● 家庭では

- 身近に起こった「ヒヤリ・ハット」体験等をもとに、交通安全について家族や友人と話し合しましょう。
- 時間に余裕をもって出発できるよう声かけをしましょう。
- 交通事故に備えて、ヘルメット、胸部プロテクター等を正しく着用しましょう。

※ すり抜け運転とは

以下の①から⑥までに掲げる道路交通法違反を、二輪車運転者が停止中又は走行中の車両の側方を通過する行為のことをいう。

- | | | |
|----------|------------|------------|
| ① 追越し違反 | ② 路側帯通行違反 | ③ 右側通行違反 |
| ④ 割込み等違反 | ⑤ 進路変更禁止違反 | ⑥ 安全運転義務違反 |



大阪府の状況

○ 二輪車の交通事故発生状況（令和5年6月末）

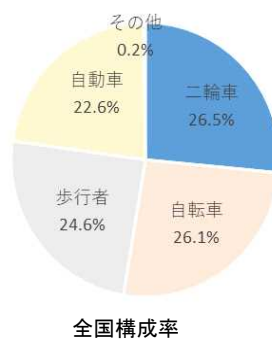
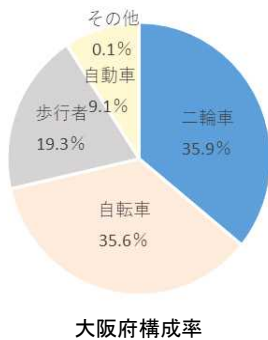
区分	年	令和5年	令和4年	前年対比	
				増減率	
件数		2,926	2,941	-15	-0.5
死者数		20	24	-4	-16.7
負傷者数		2,475	2,499	-24	-1.0
重傷者数		529	474	+55	+11.6

※ 件数は二輪車が関連した（1当又は2当）事故件数、死傷者数は二輪車乗車中の死傷者数を計上

○ 状態別死者・重傷者数

状態	年 令和5年(6月末まで)		令和4年		令和3年		令和2年		令和元年		平成30年		令和4年～平成30年累計	
	件数	構成率	件数	構成率	件数	構成率	件数	構成率	件数	構成率	件数	構成率	件数	構成率
歩行者	293	18.7	591	20.0	561	19.2	522	18.3	588	18.5	687	20.3	2,949	19.3
自動車	165	10.5	277	9.4	256	8.8	244	8.6	298	9.4	324	9.6	1,399	9.1
二輪車	549	35.0	1,043	35.4	1,061	36.3	1,058	37.1	1,140	35.8	1,185	35.0	5,487	35.9
自転車	558	35.6	1,031	35.0	1,038	35.6	1,026	36.0	1,153	36.2	1,194	35.2	5,442	35.6
その他	2	0.1	7	0.2	3	0.1	1	0.0	4	0.1	0	0.0	15	0.1
合計	1,567	100.0	2,949	100.0	2,919	100.0	2,851	100.0	3,183	100.0	3,390	100.0	15,292	100.0

○ 状態別死者・重傷者の構成率比較（令和4年～平成30年累計）

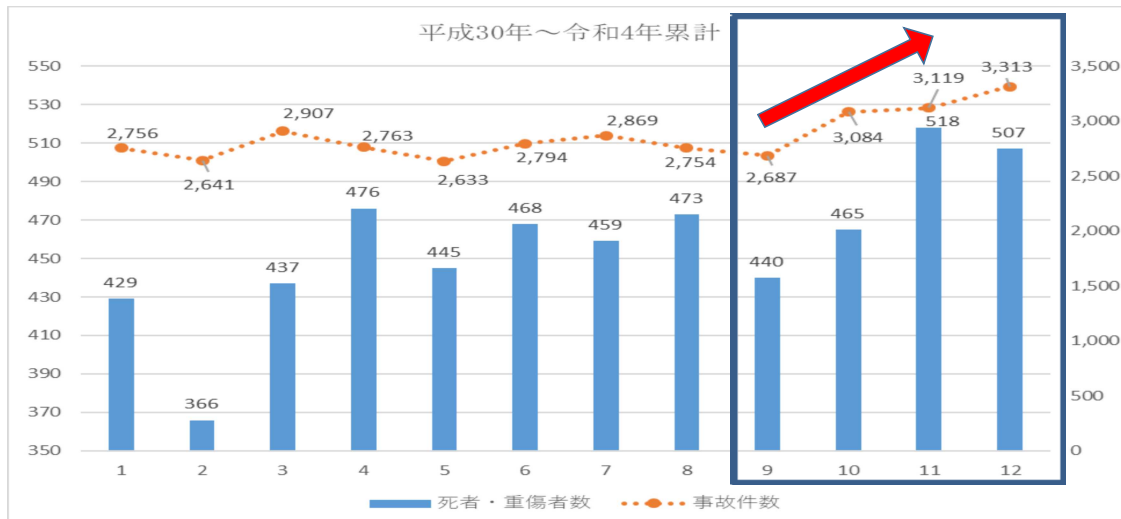


○ 二輪車の年齢層別死傷者数（令和5年6月末）※構成率は死者・重傷者数の構成率を示す。

年齢	令和5年			令和4年			前年対比	
	死者数	重傷者数	構成率	死者数	重傷者数	構成率	死者数	重傷者数
15歳以下	0	2	0.4%	0	2	0.4%	±0	±0
16～24歳	9	110	21.7%	8	100	21.7%	+1	+10
25～34歳	0	62	11.3%	5	47	10.4%	-5	+15
35～44歳	3	63	12.0%	2	63	13.1%	+1	±0
45～54歳	2	111	20.6%	2	110	22.5%	±0	+1
55～64歳	0	88	16.0%	4	77	16.3%	-4	+11
65歳以上	6	93	18.0%	3	75	15.7%	+3	+18
合計	20	529	100.0%	24	474	100.0%	-4	+55

○ 月別二輪車の交通事故件数及び死者・重傷者数（平成30年～令和4年）

※9月から年末にかけて二輪車の交通事故が増加傾向



○ 二輪車の類型別死傷者数（令和5年6月末）

※構成率は死者・重傷者数の構成率を示す。

年 類型	令和5年			令和4年			前年対比		
	死者数	重傷者数	構成率	死者数	重傷者数	構成率	死者数	重傷者数	
人 対 車 両	横断中	0	0	0.0%	0	2	0.4%	±0	-2
	その他	0	1	0.2%	0	0	0.0%	±0	+1
		0	1	0.2%	0	2	0.4%	±0	-1
車 両 相 互	正面衝突	1	10	2.0%	0	11	2.2%	+1	-1
	追突	2	26	5.1%	5	14	3.8%	-3	+12
	出合頭	2	197	36.2%	3	167	34.1%	-1	+30
	左折時	0	45	8.2%	1	41	8.4%	-1	+4
	右折時	5	146	27.5%	6	141	29.5%	-1	+5
	その他	2	94	17.5%	3	90	18.7%	-1	+4
車 両 単 独	8	10	3.3%	6	8	2.8%	+2	+2	
列 車	0	0	0.0%	0	0	0.0%	±0	±0	
合 計	20	529	100.0%	24	474	100.0%	-4	+55	

※ 二輪車乗車中の死重傷者数を計上

○ 二輪車の原因別死傷者数（令和5年6月末）

※構成率は死者・重傷者数の構成率を示す。

年	令和5年			令和4年			前年対比		
	死者数	重傷者数	構成率	死者数	重傷者数	構成率	死者数	重傷者数	
違反									
信号無視	0	14	2.6%	3	15	0.7%	-3	-1	
速度超過	2	2	0.8%	1	4	0.2%	+1	-2	
交差点安全進行義務	4	32	6.8%	3	33	1.5%	+1	-1	
指定場所一時不停止	0	16	3.0%	0	11	0.4%	±0	+5	
安 全 運 転 義 務	ハンドル等操作不適	5	6	2.1%	6	9	0.6%	-1	-3
	前方不注意	1	11	2.3%	1	4	0.2%	±0	+7
	動静不注視	0	125	23.6%	3	115	4.8%	-3	+10
	安全不確認	5	183	35.5%	1	161	6.5%	+4	+22
その他	0	5	0.9%	0	8	0.3%	±0	-3	
その他の違反	0	20	3.8%	4	28	1.3%	-4	-8	
調査不能	0	0	0.0%	0	1	0.0%	±0	-1	
違反なし	2	97	18.7%	2	75	3.1%	±0	+22	
合 計	19	511	100.0%	24	464	100.0%	-5	-1,942	

※ 二輪車乗車中（1当+2当）の死重傷者数を計上